

2年C組 美術科 題材設計・学習指導案

指導者 村上 美樹

1 日時（場所） 令和5年10月30日（月） 13:50～14:40（美術室）

2 教科領域別研究テーマ

生活や社会の中の美術や美術文化と主体的に関わろうとする生徒の育成
ー生徒の見方や感じ方を広げ、メタ認知力の向上を促す学習展開と評価の工夫ー

3 研究テーマ設定の理由

美術科では、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。生徒が美術科の学習を通して、エージェンシーを発揮しながら、社会の中の美術と主体的に関わろうとする姿勢を身に付けることができれば、自分たちの力でよりよいものを生み出し、よりよい未来を拓く力を育むことができるのではないかと考える。昨年度は、実生活や社会を意識した題材や生徒が活動内容を選択することができる題材を用いることで、主体的な学びを促進する研究を行った。その結果、生徒の活動内容の幅が広がることにより、自らの考えを深め、多様な表現につなげようとする生徒が増えた。また、デジタルポートフォリオを活用し、学習の過程を見守りながら支援を行ったことで、生徒が見通しや目標を持ち、達成に向けて粘り強く取り組むことができた。今年度はこれらの実践を続けながら、生徒が相互評価や意見交換をする場面の設定を工夫し、より一層生徒の見方や考え方を広げさせたい。それにより、生徒が自己評価の客観性を高め、自己調整をしながら取り組むことができるようにしていきたい。

4 題材設計（題材名：自画像～自分自身を見つめて～〈着色編〉）

(1) 題材目標

- 描画材料の特性を生かしながら意図に応じて表現方法を工夫し、主題を創造的に表すことができる。 「知識及び技能」
- 自分自身を見つめて主題を生み出し、心豊かに表現する構想を練ることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 自画像作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。 「思考力、判断力、表現力等」
- 美術の創造活動の喜びを味わい、自分の内面をとらえて表現することに関心を持ち、表現及び鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
描画材料の特性を生かしながら意図に応じて表現方法を工夫し、主題を創造的に表している。	①自分自身を見つめて主題を生み出し、心豊かに表現する構想を練っている。 ②自画像作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	美術の創造活動の喜びを味わい、自分の内面をとらえて表現することに関心を持ち、表現及び鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画（全7時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1 本時	・自画像の鑑賞や下絵の構想を基に、着色の練習を行いながら主題に合う表現方法を再考することを通して、主題と表現に対する考えを深めさせる。	思 ①		・色彩の性質が感情にもたらす効果や、創造的な工夫などについて考えながら構想を練っている。（ワークシート）
2 3 4 5 6	・パフォーマンス課題 ・パフォーマンス課題の途中で作品の良さや改善案などの意見を交換する小集団活動を通して、よりよい表現になるよう学習活動を自己調整する。	知 思 態 思 ①	○ ○ ○	・（パフォーマンス課題による評価） ・話し合いを基に、よりよい表現方法についての考えを深め、心豊かに表現する構想を練ることができる。
7	・完成作品の鑑賞会を通して、作者の心情や意図と創造的な工夫などについて考えたり、作品の良さや美しさを味わったりする。	思 ② 態	○ ○	・自画像作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 （デジタルポートフォリオ，観察） （支援）鑑賞のポイントを振り返り、多様な視点で作品について考えるよう促す。 ・美術の創造活動の喜びを味わい、自分の内面をとらえて表現することに関心を持ち、鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 （デジタルポートフォリオ，観察） （支援）制作過程をフィードバックしながら、それぞれの表現のよさに着目させる。

(4) パフォーマンス課題

愛媛県には「少年の日」という、14歳を迎えた人たちが、自覚、立志、健康を柱に、自分の将来の方向性を考え、志を立てる日があります。少年の日を迎えるみなさんの自画像を、章光堂に展示することになりました。自画像制作を通して、14歳の「自分」を深く見つめ、心の中の世界や自分らしさなど、多様な視点から自分について考えてください。そして、みなさんが生み出した自画像作品のテーマを、どのようにすれば表現することができるか、今まで学習した色彩や着色、技法、鑑賞などの知識や経験を生かして、より良い表現方法を考え、工夫して作品を制作しましょう。

5 題材と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒(32名)は、1学期に風景の写生、モダンテクニック、ポスターなどの題材を経験している。これらの題材では、1年生での既習内容や新しく習得した技法を活用し、粘り強く制作に取り組む様子が見られた。一方で、生徒によって制作の見通しや自己評価の客観性に差があり、よりよい表現を探究することが不十分な様子も一部見られた。そのため、生徒の自己評価の客観性を高め、自己調整能力をより一層向上させる必要があると考える。

本題材の前段階として、9月～10月に自画像作品の鑑賞、自己分析を用いた下絵の構想と制

作を行った。自画像作品の鑑賞では、作品のよさや面白さを味わうとともに、作品から受けた印象はどのような表現から感じ取られたのかを考察するなど、積極的に作品の見方を深めようとする様子が見られた。下絵の構想や制作では、鑑賞活動を生かして作品の主題に合うポーズや表情、構成を考えるなど意欲的な姿勢が見られた。

しかし、本題材の前に実施したアンケートでは、「絵画作品のアイデアを考えること」の項目に否定的な回答をした生徒が6人、「絵画作品の着色をすること」の項目には9人いた。その理由として、「あまりアイデアが浮かばない」、「思ったように着色できず、自分のイメージと違うものができてしまう」という意見が多かった。「あまりアイデアが浮かばない」と答えた生徒の意見には、「描き始めや色で悩んでしまう」「考えることは好きだが、なかなかうまく描けない」という内容が見られた。このことから、アイデアを具現化していく段階の中でも、特に配色や着色に課題があると考えられる。

(2) 題材について

自画像は、自己の内面の世界、周囲とのつながりや社会とのつながり、未来への展望など、生徒の自分自身に対する考えや成長過程における葛藤、興味・関心などを作品に反映させることができる。そのため、生徒が実感のある主題を生み出し、より主体的に表現を探究できる題材として、自画像がふさわしいのではないかと考えた。また、1学期の学習を生かしながら、思考や感情など抽象的なイメージの表現方法も探らせることで、メッセージ性のある作品づくりに挑戦させたい。

(3) 指導について

ア 既習の知識や技能を活用し、主体的な表現活動を促進するための工夫

前述のアンケートの意見から、生徒たちが表現活動の中でも配色や着色に不安を感じていることが窺える。この不安を解消するために、ロイロノートを用いて、既習内容（配色や着色、モダンテクニックなど）についての解説資料、過去の制作や鑑賞の様子などを、生徒がいつでも画像や映像で確認することができるようにする。これらの資料を必要なタイミングで確認し、既習の知識や技能を活用することが、よりよい表現を探究するヒントとなり、生徒の主体的な表現活動の促進につながるのではないかと考える。

イ デジタルポートフォリオを活用した振り返りの工夫

これまでの学習では、デジタルポートフォリオを用いて制作過程を確認することで、生徒が目標達成への見通しを持ちながら意欲的に取り組むことができていた。その一方で、生徒によってねらいの理解や自己評価の客観性に差があり、学びの深まりにも差が生まれた。そのため、本題材では振り返りの場面を中心に、生徒相互で評価し合い、意見交換をする場面を設定し、生徒が互いの課題や目標達成への手立てなどを助言し合う活動を行う。それにより、生徒の自己評価の客観性を高め、自己調整をしながら取り組む力の向上を図りたい。より効果的な振り返りの場にしていくために、デジタルポートフォリオを活用するとともに、題材のねらいと評価のポイントを明確にし、後述する鑑賞活動の充実と合わせて実践していきたい。

ウ 鑑賞活動の充実

表現と鑑賞がつながり合い、相乗的な効果を引き出せるようにするために、鑑賞の題材選定や活動を行うタイミングなどを考慮して指導計画を作成する。美術作品の鑑賞と制作途中作品の相互鑑賞を関連させ、自画像ならではの表現の魅力に気付かせたり、表現と印象の関係を探らせたりすることで、生徒が見方や考え方を広げ、自己の課題を見つめ直し、考えを練り直すことができるようにしたい。また、鑑賞活動の良さや面白さを実感させることで、今後の人生においても鑑賞に親しみ、心豊かな生活を創造していく態度を育成したいと考える。

6 本時の指導（1／7時間）

(1) 主題 作品のテーマに合う表現方法を考えよう

(2) ねらい

○色彩の性質が感情にもたらす効果、創造的な工夫などについて考えながら構想を練っている。

(3) 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 学習課題を確認する。（一斉）	3	○前題材の鑑賞や下絵の制作を振り返り、本題材や本時の見通しを確認しよう。	○生徒に見通しを持たせるために、デジタルポートフォリオを用いて本題材の流れを説明する。
作品のテーマに合う表現方法を考えよう。			
2 表現方法による印象の違いについて確認する。（一斉）	3	○資料を見て、配色による効果や着色方法による印象の違いを確認しよう。	○表現方法による印象の違いが理解しやすいよう、具体例をロイロノートの資料で示す。 ○前題材の鑑賞活動を振り返り、自画像の表現と印象のつながりや、人によって作品から受ける印象に違いがあることを確認する。
3 作品のテーマに合う表現方法を考える。 （個人） ↓ （小集団） ↓ （個人）	15	○ワークシートに着色練習をしながら、作品のテーマに合う表現方法を考えよう。 ・テーマを表現するために、背景を工夫して塗ってみようかな。 ・実際に塗ってみると、思ったイメージと違ったかもしれない。どうしたらいいのかな。	○表現方法を具体的にイメージさせるため、下絵を縮小印刷したワークシートを用いる。 ○配色や混色、着色に悩んでいる生徒に考えを促すために、資料を示しながら助言する。 ○アイデアの変容を分かりやすくするために、ワークシートの写真をデジタルポートフォリオに記録させる。
	8	○アイデアの発表や助言を行い、よりよい表現方法に対する考えを深めよう。 ・配色を変えることで、イメージがずいぶん変わりそうだな。 ・モダンテクニックを使うことで、複雑な感情のイメージが表現できそうだな。	○話し合い活動の内容の具体性を高めるために、着目するポイント（配色、タッチ、技法などによる効果など）を示す。
	15	○小集団活動を通して考えたことを基に、表現方法のアイデアを再考しよう。 ・色についてアドバイスをもらったので、配色を変えて塗ってみようかな。 ・話し合いを参考に塗り方を変えてみると、何とも言えない雰囲気が出てきたな。	◎色彩の性質やそれらが感情にもたらす効果、創造的な工夫などについて考えながら構想を練っている。 （ワークシート） ○再度デジタルポートフォリオに記録させ、アイデアが変化したところに注目させる。
4 本時の振り返りをする。（一斉）	6	○アイデアの変容を発表し、全体で共有しよう。 ・助言を基に背景の色や塗り方を変えてみると、より明るく元気なイメージが感じられる表現になってきた。 ○本時を振り返り、自己評価をしよう。	○アイデアの変容や表現方法を探究する面白さに気付かせ、より多様な視点からアイデアを考えさせるために、全体でいくつか意見を発表させ、共有する。 ○学んだことを自己評価し、次時につなげさせるため、デジタルポートフォリオに記入させる。

7 授業研究の視点

○小集団で発表や助言をし合う場面を設定したことは、作品をよりよいものにしようとする自己調整力を高めることに有効であったか。

○ロイロノートの活用が生徒の主体的な表現活動を促進することに有効であったか。